

日医研

アメリカ最新医療

視察ツアー

～専門医療からポピュレーションヘルスへ変革する米国へ～

米国では通称「オバマケア」の医療改革の下で、※ACO と呼ばれる地域医療の一大勢力が生まれました。プライマリケアを重視する ACO は米国の医療を入院医療から外来医療へ、急性期医療から慢性期医療へ、全体として医療介護サービスの統合化へと一段と押し進めています。

一口で表現すると米国医療は個々の患者に対する専門医療から地域住民を対象とするポピュレーションヘルスへ比重を大きく変えようとしています。これは我国医療の先行きを示す現象ともいえます。今回の視察ツアーは米国のビジネス界がイベントシーズンを迎える直前に日程設定致しました。訪問地のミネアポリスはこの数十年来医療改革イノベーションの先進地として知られており、首都ワシントンはシカゴと並び医療関係団体の集結する所となっております。両地で医療の現場と関係団体の動向を視察し、変革に対応する経営戦略や経営術を学ぶ機会を提供いたします。

尚、参加人数は 15 名限定とさせていただきますのでお早めにお申し込みください。

※ACO: Accountable Care Organization

【日 程】 2019年 6月8日(土) 午後4時 成田空港発

6月16日(日) 午前11時 成田空港着 9日間

【訪問地】 ミネアポリス(ミネソタ州)、ワシントン D.C. (ミネアポリス→ワシントン D.C. 移動日 6/12)

【費用】 68万円/一人 (同伴者がいる場合宿泊費割引有)

【募集人数】 15名限定 申し込み順 (同伴は1人まで可)

【主催】 (株)日本医療経営研究所 代表 野口哲英 通訳 梶野由美 ほか

コーディネーター 盛 宮喜 元 日経メディカル編集長/月刊 JAHMC 編集長



1940年生。大阪大学経済学部卒。63年日本経済新聞社入社、71年日経マグロウヒル社記者、編集長を経て96年日経メディカル開発常務、同顧問。専門は医療戦略、医療政策、米国医療制度。主な著作に「ハワイからみた米国の医療」(社会保険旬報) 1980年代半ばから毎年米国を主とした海外医療ツアーのコーディネーターとして活躍



現地コンサルタント Dr. Lee Pickler 米国ボールドウィンウォレス大学名誉教授

リー氏は過去 18 年間教鞭を取ると同時に医療機関に対する医療情報システムに関するコンサルタント。2000 年より日米の医療経営人材交流に従事。東京・大阪で開催する日米医療経営フォーラムに米国から講師陣の派遣に尽力。日本から米国への医療研修ツアーの企画・支援に主導的役割を果たしている。今後も継続する。富士山に3度登頂

旅行会社

大手旅行会社

【FAX: 03-5225-1522 または Mail: info@nichiiken.com

米国視察ツアー(6/8~6/16)に **参加します (名)**

お名前 : _____

病院名 : _____

ご住所 : _____

TEL : _____

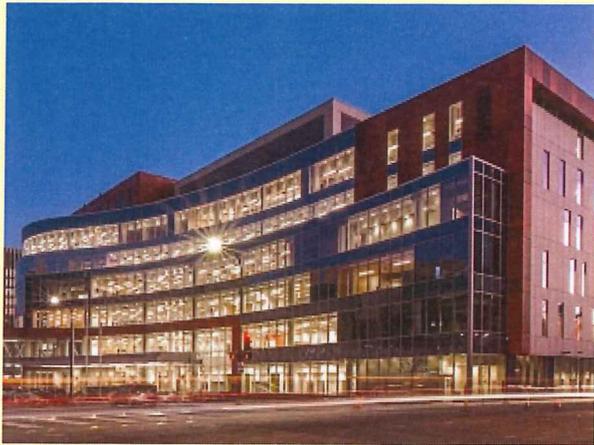
1. アボット・ノースウエスタン病院

(Abbott Northwestern Hospital)

ツインシティ（双児都市）と呼ばれるミネアポリス・セントポールで最大の医療機関。アリナ（Allina Hospitals & clinics）と呼ばれる統合組織の下で病院 17、ナーシングホーム 2、クリニック 40 以上をミネソタ、ウィスコンシン、ノースダコタの 3 州で運営しており、アボット・ノースウエスタン病院はその代表格。この病院の創設（1882 年）から始まるこの医療組織の歴史は合併に次ぐ合併であり、大病院の集団から今日では地域の有力なメディカルセンターに発展した。この医療統合は全米各地で見られる現実であり、統合を推し進める経営革新力は米国医療の明日を語っている。



ミネソタ州・ミネアポリス



ミネソタ州・ミネアポリス

2. ヘネピンヘルスケアシステム

(Hennepin Healthcare System)

ミネアポリス地域を代表する統合医療組織の 1 つ。中心部に成人・子供の致命救急を担うレベル 1 のトラウマセンター、484 床の高度急性期病院、巨大な外来クリニック専門医療センターを構え、郊外のヘネピン郡にかけて日常診療を行うクリニックのネットワークを築いている。従業員は医師を含めて 7300 人。

身近な診療所から高度急性期病院まで併せもつ統合医療組織がいかように運営されているかを学び、我国の地域医療構築のあり方を考える機会とする。ヘネピンヘルスケアは他に充実した精神科プログラムや在宅ケア・ホスピスを持ち、研究所や技術革新センター、慈善財団なども運営している。

3. NIST : 国家標準技術局

(National Institute of Standard and Technology)

マルコム・ポールドリッジ賞（MB 賞）は無数にある米国の公的表彰制度の中でも最高位に位置づけられている。日本生産性本部が主催する経営品質賞のモデルになった。1989 年に医療分野のプロコールが設定され 2003 年第一号から 2018 年までに 20 ばかりの組織が受賞している。その賞を所管しているのが NIST である。NIST 訪問は今回のツアーの大きなポイント。MB 賞による組織評価の仕方や米企業の経営改善の多大なインパクトを知ることは大きな価値をもたらすに違いない。



ワシントン D.C.



ワシントン D.C.

4. プロビデンス病院

(Providence Hospital)

首都ワシントン北西部に位置するプロビデンス病院はリンカーン大統領の肝入りで創設したと言われる由緒ある病院である。283 床で約 500 人の登録を抱える。経営するプロビデンス・ヘルス・システムは 2018 年末までに急性期医療を廃止し、ポピュレーションヘルスに重点を移すと発表した。今後はケア・コーディネーション遠隔医療、プライマリケア・応急診療、在宅ケア、地域ベースの行動医療、そして高齢者ケアに大きく依存していくことになる。

急性期医療から慢性期医療へ、さらに住民全体の健康を守るケアへ移行していく。米国医療の流れをまさに体現する見事な例を目の当たりにすることができそうである。